

創立50周年
認承40周年

かがり火

JCI
http://mnjc.jp/

2011年度

公益社団法人 南長野青年会議所



2011年度スローガン

善の循環で事を成す

かがり火を胸に未来を照らす源となれ

Vol.4

発行責任者：2011年度(公社)南長野青年会議所・総務渉外委員会

発行：平成23年12月

第3回 ふれあい音楽祭

10月例会

10月16日(日) ホクト文化ホール(小ホール)

第3回 ふれあい音楽祭

未来ビジョン委員会

10月16日(日)に10月例会「第3回ふれあい音楽祭」をホクト文化ホールにて開催致しました。本事業は「ふれあい」をテーマとし、障がいをお持ちの方々に音楽の演奏やダンスの発表、手作り小物等の販売をしていただきました。障がいをお持ちの方々は日ごろの成果を発表する場が少なく、また健常者とふれあう機会も多くはない中、いずれは社会に羽ばたいていかななくてはなりません。そんな彼らにとってこの音楽祭が、社会へ羽ばたくための一つのステップになればという思いと、親御様にもお子様の成長を感じていただき、さらに音楽の持つ素晴らしい力により親御様自身の心のケアも図れればという思いで開催させていただきました。

出演者の方々はこの日のために、長い間練習を積みかさね、みごとな演奏やダンスをしてくださいました。本事業では、日頃の練習まで目には見えませんが、これほど息の合った、素晴らしい演奏やダンスをするには並大抵の努力ではできないと感じました。皆様の発表の場、ふれあいの場、さらには少しでも施設の方々の励みになればと考えておりましたが、彼らの姿やその努力の陰を感じ、一番励みになったのは我々自身を含めご来場頂いた皆様だったのではないのでしょうか。日頃感じることもない、感動がそこにはありました。

また、ゲスト出演者としてピアノの宮下静香様、フルートの坂本あゆみ様、そしてマリンバ・パーカッションの福島優美様に民謡からディズニーの演奏をしていただき、最後には会場全体を巻き込んでの楽しい大円舞となりました。

第3回ふれあい音楽祭は、施設の方々の努力、それを支える施設関係者の皆様、親御様、会場を盛り上げてくださる販売ブースの方々、そして来場者の皆様、みんながふれあうことのできる場となり会場は感動に包まれました。出演者をはじめ、ご協力いただいた多くの皆様本当にありがとうございました。



11月例会

11月26日(土)～12月24日(土) 南長野運動公園

南長野フェスティバル2011 笑顔×絆

社会開発委員会

11月26日(土)南長野運動公園において11月例会「南長野フェスティバル2011 笑顔×絆」を開催致しました。

会場のイルミネーションは、当青年会議所のメンバーなど1ヵ月前から飾り付け準備をし、多くの方々の御協力によりこの点灯式の日を迎えることができました。

本年は、東日本大震災があり、イベント自粛や節電などイルミネーションイベントを実施するのは相応しくないのではと思った時もありましたが、被災地の方々の復興に向け、前向きに活動されている姿を見て、私たちにできる復興支援として長野から元気を被災地へ届けるべく笑顔や絆をテーマに開催させていただきました。

点灯式では、笑顔や絆のメッセージ灯籠を来場頂いた方々に作製していただきハート形に並べて完成させていただきました。そして来場した多くの方々と一緒に点灯する時間を共に過ごさせていただき、思い描いていた点灯式を形にすることが出来ました。

イルミネーションの点灯期間は12月24日(土)まで行なわれ、多くの方に来場していただき、笑顔になって、大切な方と訪れて絆を確かめあって頂けたのではないかと思います。皆様のご協力のおかげで無事終了いたしました。本当にありがとうございました。



イルミネーショントンネル



キャンドル灯籠



メインタワー

温故知新 ONKOCHISHIN 南長野JCって!?

Entry-No.07 1985年度 9月14日・15日

20時間愛のチャリティーバザール



日本J Cの「アフリカヘブルドーザーと心を」との呼び掛けに、24時間愛のチャリティーバザールが開催されました。市民の皆様から2万点を越えるバザー商品を提供いただき、全国J Cの中で最高額の義援金を送りました。南長野の方の暖かい心が表れたイベントだったのではないのでしょうか。

今しか会えない仲間がいる
今しかできないことがある

会員募集コーナー!

南長野青年会議所は、
新しい仲間を募集しております!

お問い合わせ先：南長野青年会議所事務局

☎026-292-2310 E-mail: minaminaganojc@mtg.biglobe.ne.jp

12月15日、サトウ会館にて第3回通常総会が開催されました。
総会議事では次年度案件も含めすべて全会一致にて承認されました。
各役員のバッジ、そしてプレジデンシャルリースも竹村理事長から大平理事長予定者へと継承され、2012年度へ向けての準備が無事に整いました事をご報告いたします。



2012年度理事メンバー

12月例会

卒業生を送る会

第Ⅰ部 第50期生卒業式
第Ⅱ部 卒業パーティー

会員指導力委員会

2011年度の最後の例会として「12月例会 卒業生を送る会」を行ないました。

Ⅱ部構成で行い、第Ⅰ部は「第50期生卒業式」としテーマは「厳粛」でした。卒業生証書・記念品を送らせて頂き、10名の卒業を一人も欠けることなく無事行わせて頂くことができました。また、第Ⅱ部では「卒業パーティー」としⅠ部とは打って変わって「はじめて！」をテーマに笑いあいの涙ありのひとときを卒業生と共に楽しく過ごさせて頂きました。

卒業生の皆様、本当におめでとうございました。また、この場をお借りしまして、会場を快く使わせて頂いた(有)サトウ会館の社長様はじめスタッフの皆様、また、ご協力頂いた南長野青年会議所のメンバーの皆様、それから委員メンバーの皆様、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



災害復興支援事業 「大槌町物産市」

11月6日(日) 篠ノ井えびす講・篠ノ井駅前通り

11月6日(日)に災害支援活動を行い、篠ノ井えびす講に合わせて、岩手県大槌町の地元の物産を取り扱い唯一今営業をされている、六串商店様をお招きしての三陸産の物産市を開きました。

長野ブロック協議会との連携により行ったボランティア活動を頼りに岩手県の大槌町役場様と大槌町商工会様のご協力を頂きながら、賑やかとして三陸産の秋刀魚を無料でふるまいました。当日は雨が降っている中、多くの市民に御来場頂きまして義援金を戴いたり物産品をご購入頂きました。

3月11日に発生しました東日本震災より半年以上が経過し、当初の支援活動の勢いが衰退してきている中、今一度東北地方に我々地元の方々に目を向けて頂くと考え、支援活動は義援金を集めボランティアに行く事だけでなく「被災地の名産品を買う、現状を知る、被災地の人と触れ合う」ことも支援活動になるのではないかと思います。まだまだ、震災前の状態に戻るには何年かかかります。我々一人ひとりができる支援活動は微々たるものかもしれませんが、その力が継続して結集していけば町の、経済の復興も早いものになると確信しています。

当日ご来場頂きました長野市民の方々、南長野青年会議所の先輩方、岩手県大槌町六串商店様、当会議所メンバーの皆様ご協力ありがとうございました。



災害復興支援事業 「災害ボランティアIN気仙沼」

11月12日(土)・13日(日) 宮城県気仙沼市

11月12日(土)・13日(日)の2日間、宮城県気仙沼市において復興支援活動を行ないました。当会議所に描きまわしては初めての宮城県の災害支援ボランティア活動になりました。

気仙沼市に着き社会福祉協議会のボランティアセンターにて受付を済ませ初日の活動場所まで行きました。あたりは大きな瓦礫などは撤去・解体されていましたが残った建物内は泥だらけになっており土ぼこりと格闘しながらの活動になりました。又、作業終了後には港まで連れて行ってもらい、津波の爪痕をまざまざ見せつけられました。

2日目は気仙沼港より船に乗り大島という島まで行き旅館の片付けを行いました。近くに流れている小川も清掃しましたがゴミが泥の中よりどんどん出てきて大変苦労しました。主な作業内容は旅館の清掃でしたが建物は解体し、もう営業はしないとの事で大変残念な気持ちになりました。屋根の上にも自動販売機が転がっており改めて津波の威力を思い知らされました。

社会福祉協議会の方の話によるとボランティアの人数がだんだん減ってきているそうです。まだまだ復興には時間が掛かります。この先も人的支援に限らず様々な角度からの支援活動が必要不可欠である事を再認識した2日間となりました。



編集後記

とうとう総務渉外委員会の2011年度外報紙「かがり火」も本号を持ちまして最終版となりました。1年間ご愛読いただきまして誠にありがとうございました。

本年度は当青年会議所にとって大変大きな節目の年であり飛躍の年であったと紙面を読み返しながら感じました。周年事業・災害支援事業・公益法人格への移行など南長野青年会議所の運動をどのように行い、さらに広められるのか。またより多くの皆様に伝えられるのか。そんなことを考えながら取り組みました。

受け継がれてきた「かがり火」を絶やすことなく、引き続きご愛読をお願いいたしまして御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

総務渉外委員会 倉嶋 輝行

報恩感謝

2011年度理事長 竹村 成弘

除夜の鐘が近づく頃となってまいりました。2011年も残りわずかとなりました。本年は、「善の循環で事を成す かがり火を胸に未来を照らす源となれ」をスローガンに無垢なる年をいかにJayceeとして南長野の真っ白なキャンパスに描くかを問いながら、人にそして地域に光を当てることを基本理念として運動展開してまいりました。

しかし、未曾有の大震災が起り、今青年として何をすべきかを悩みました。震災対応をする中で、その答えは南長野地域の市民の方々に教えていただきました。

それは「今できることから始めていく」ということでした。地域市民の皆様から「善意」をお預かりするたびに、力が湧き少しでもできることを継続していくことの重要性を感じさせていただきました。そして、自粛ムードがある中ではありましたが、本年のJC運動や活動を計画通り実行させていただきました。①周年事業②篠ノ井イヤーへの協力③公益法人取得④災害支援事業の4輪駆動で前に進むことを決意し、メンバーと共有させていただきました。

皆様のおかげさまをもちまして、一つもかける事無く全ての事業をやりきることが出来ました。そして8月には、「報恩感謝」をテーマとし創立50周年・認承40周年の記念式典を挙げていただきました。ご臨席いただきました皆様に対し、改めて御礼申し上げます。また、この善き年に公益社団法人格を取得し、登記を済ませることが出来ましたことは非常に幸せでありました。

さて、一年間を通じ我々が起こす「善の循環」は、非常に小さいものだったかもしれませんが、しかしながら、地域を愛し、仲間を信じ行うものはやがて光を集めながら輝かしい未来へと続く事を確信させていただきました。本誌を愛読いただく皆様にも我々の理である「明るい豊かな社会の実現」が少しでも伝わったのであれば幸いです。次年度は公益社団法人元年として、多くの事業が計画されています。2012年度、大平郁久男理事長を中心に確かな一歩を踏み出し、輝かしい明日を創造してくれると確信しております。今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。2011年度かがり火最終号に当たりましての御礼とさせていただきます。一年間、私の独り善がりにご協力、ご支援賜りまして誠にありがとうございました。

温故知新 ONKOCHISHIN 南長野JCって!?

地域の社会資源である「人」達が、立場、組織の役割を踏まえ、共通問題である「認知症」について学び、若い世代に知って貰う活動を行いました。人口の約3割が65歳以上になる高齢化社会は、もう目の前に迫っています。私達JCは、積極的にこの問題に取り組み、「安心」「安全」「尊厳を守る」地域社会作りを続けていかなければなりません。

ENTRY-No.08 2010年度 9月委員会事業

認知症サポーター 私たちの町で70万分の1の挑戦!
(グループワークテーマ 認知症の人に聞きたとき、自分ができる事は?)

2010 青少年育成委員会

担当委員長 伝田 景光さん

